

生命の強さと温もりを感じる木育



YouTube

葉を踏みしめる音、風の音、鳥のさえずり…。自然の声に耳を傾け、自然の香りを大きく吸い込む。気軽に森林浴を楽しめる場所です。

中心市街地からさほど離れていない当麻山ですが、そこは自然があふれています。高く伸びる樹木には力強さがあり、そこに生活する生き物に生命力を分け与える姿には優しさを感じます。

「くるみなの散歩道」は、当麻山を1周する約3kmの遊歩道で、自然に生息する樹木に触れる木育の拠点です。



くるみなの散歩道(当麻山周辺)
利用時間/ 5:00～日没まで
入場料/無料
☎ 0166-84-2111
(当麻町役場まちづくり推進課)



くるみなの木遊館
(当麻町6条西4丁目)
利用時間/ 10:00～17:00
年末年始休業(12/29～1/5)
入場料/無料
☎ 0166-84-2882

木に触れ、温もりを感じることで、その命のおかげで豊かな生活を送ることができるという実感を持ちます。

「くるみなの木遊館」は、生活の中で使われている木に触れる木育の拠点です。
柱や梁などの構造材に町産木材を100%使用した館内には、木製の遊具が並び、子どもは思う存分、木と遊ぶことができます。また木工加工室を併設し、加工の過程を見学することができます。さらに木工体験室では木材加工を体験することができます。



幼い頃から当麻で生まれた木に触れて、その温もりや力強さを感じて育ってほしい。その思いをもとに「くるみなの木遊館」を整備し、木育を進める当麻町。日頃から至る所で木を感じる事が大切だと考えています。

「ふるさと」思い出机」事業はその考えを具現化した一つです。当麻中学校へ進学する子どもたちは入学直前に、くるみなの木遊館で学習機の製作を行います。町産のカラマツ材を使用し、自分の名前が彫られたこの机は3年間、教室で使用する机となります。中学生生活を木の温もりを感じながら過ごし、天板は卒業する際にプレゼントされます。毎日使う「相棒」を町で生まれた材料で自ら作る…。木育の取り組みの一つです。



町のシンボルであり木育体験の場 “当麻山”



町のシンボルである「当麻山」。小さい山ですが、ここにはたくさん野生植物・動物が生息し、その息吹を感じることが出来ます。

展望台へつながる登山道は30分程の軽登山が可能。またアスレチック、キャンプ場、世界の昆虫館「パピヨンシャトー」があり、さらに麓には野球場、テニスコート、当麻町発祥の軽スポーツ「フイールドボール場」を整備し、隣

には温浴施設「ヘルシーシャトー」もあることから、「一日遊べる場所」「いち日ランド」として人気のスポットです。

多くの人でにぎわう当麻山では、1年を通してさまざまなアウトドアアクティビティが行われています。ハンモックでのキャンプ、スノーシューでの雪山散策、冬キャンプ…。木育体験「グリーンウツ

ドワーク」もその一つ。グリーンウツドワークとは、乾燥していない生木を手道具で割ったり削ったりする木工のこと。削り馬という作業台にまたがり、当麻山の支障木や折れた枝などを使ったクラフトは小さなお子さんから大人まで楽しめます。みずみずしく柔らかな生木の感触を手に感じながら、スルスルと木を削る独特な触感。木の生命を感じる事が出来ます。

これらの仕掛人が、観光施設を管理する(株)うま振興公社職員の石黒康太郎さん。当麻山の魅力を「気軽に入山でき、豊富な自然にあふれているところだ」と話す石黒さんは、北海道が認定する木育マイスターの資格を持ち、さまざまな地域で体験したアクティビティや木育活動を当麻山に反映させています。



YouTube

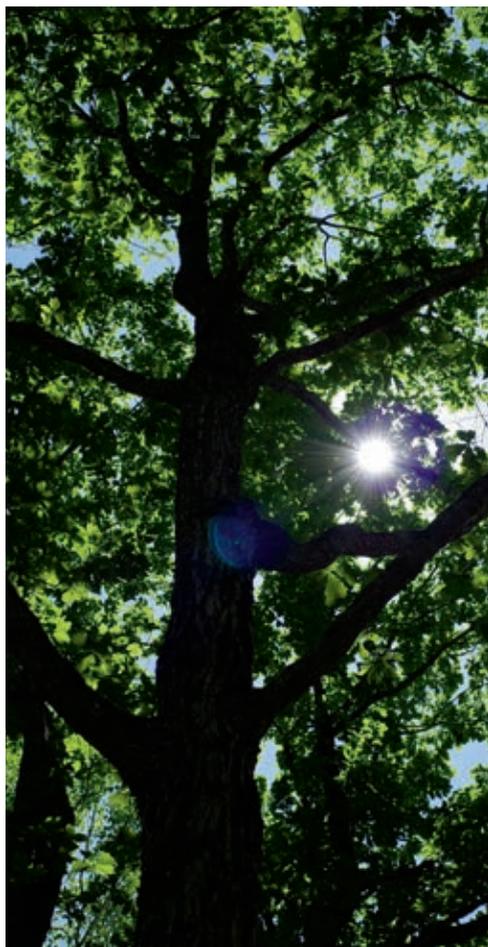
山と生きる家具職人

隣町である愛別町との境にある山林「I K A U S I C L A S S」に入山すると、製作途中のツリーハウスが現れます。製作には誰でも参加することができ(要申し込み)、自然を感じながら木育体験をすることが出来ます。他にも焚火体験やスノーシュー散策など、ゆっくりと進む「森の時間」を過ごすことが出来ます。「街の喧騒から離れ、自分の時間をゆっくりと過ごしたい」I K A U S I C L A S Sにはそんな思いを持った人が集います。

心地よい風と森の香り、そして木洩れ日が射し込むI K A U S I C L A S Sは元々特に手を加えられていなかった山林でした。笹藪を切り拓き、支障木を整理しながら数年かけて、人が入れる森を整備しました。

I K A U S I C L A S Sを所有するのは原弘治さん。技能五輪家具部門で金メダルを獲得した腕前を持つ家具職人の原さんは、旭川市の家具会社で製作をする中で「ここで生まれた木材を使用しているか理解し、その木材の良さを知らなければ、お客さんに「良い家具です」と胸を張ることはできないのでは？」と考え山林を購入。山林整備という未知の領域に挑戦しながら、山とともに所有者として成長してきました。その後、地域おこし協力隊として当麻町に移住。現在は町内で起業し活動を続けています。

石黒さんと同じく木育マイスターの資格を持つ原さんはI K A U S I C L A S Sでの活動だけではなく、当麻町の自然を活用し、木育活動を進めています。



未来を創る循環型林業



当麻町は面積の65%を山林が占めています。豊富な森林資源は農業に水を分け与え、自然災害から守るとともに、基幹産業である林業を支えています。

当麻町の民有林は約半分が人工林で、その8割が林齢40年生を超え伐期を迎えています。その多くを管理している当麻町森林組合は、伐採と植林を計画的に行い、保育を続けることで森林作業の安定化を図っています。“木を植える”“育てる”“木を伐る”これを繰り返す「循環型林業」に主眼をおき、未来へ資源を残す経営をしています。

地道な作業により山林が保たれ、私たちはその恵みを受けられることができます。当麻町の木育は、“山を育て続ける人”がいるから推進できるのです。



人の暮らしを豊かにする木育

伐期を迎え、当麻の山林から伐採されたカラマツなどの樹木は、一般製材や梱包材など広く活用されています。また木育の観点から、木の温もりを日常の中で広く感じてもらうために、役場庁舎、公民館まとまーる、くるみなの木遊館、子育て総合センターの木材は全て町産材を使用。また公営住宅の構造材にも町産材が使用されています。さらに町産材を使用して新築した住宅には、最大250万円を補助する「当麻町産材活用促進事業」を実施。店舗で町産材を活用する場合にも、最大100万円を補助する「とうまのお店元気事業」を行い木の香りが漂うまちづくりを目指しています。

自然、産業、暮らし全てを豊かにすることが当麻町の進める木育の目的です。